

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団体名	古賀市緑のまちづくりの会
事業名	古賀市における園芸福祉事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ 助成金などにより活動資金を調達することは重要だが、組織を持続可能なものにしていくことの方が重要である。現在事業を実施できているのは、現在の構成員に限ったことであり、新たな人が入らず、将来的に衰退していくことが想定されるのであれば、活動を見直すべきである。組織づくりのため、市民活動支援センターと連携していくことも重要と考える。・ 担当課として団体の必要性を感じるのであれば、団体だけの問題ではなく、行政全体の問題として連携して考えていく必要がある。・ 有益な活動だとしても、実費負担をしてまでボランティアに参加する人は少ないように感じる。補助金を受けた 3 年間で何も対策を講じてきていないのが残念に思う。完全にボランティアの形態で事業を継続するのであれば、行政の支援無しには継続できないと考える。また、行政を含め相手方から実費負担をしてもらう仕組みを担当課と協議していくことが重要である。・ 担当課を含む行政の方は、補助金等で団体を支援する安易な発想ではなく、どのようにすれば、行政と団体が共働で緑のまちづくりを持続可能にしていけるかを考えていくことが重要。・ 昨年度、委員会でも費用負担の在り方について、意見を付していたにも関わらず、取組に変化が見えないのは残念。今後は、担当課を交え、事業の見直しを図ることが必要。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団 体 名	古賀市民オーケストラ
事 業 名	定期演奏会
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者等が少ないことに関しては、ニーズを的確に捉えることが重要である。対象となる方の状態や状況によってニーズは異なるので、きちんと声を集め、その一つ一つに答えていく努力をすることが、文化度の向上につながるのではないかと。今後の自立の面に関して、単にクオリティを上げて、市内以外からも多くの人を呼んで収入を上げるだけでなく、規模を縮小して自主財源で実施できる範囲で、様々な人たちに対して、アプローチをすることも考えて、市民オーケストラとしての価値を高めてほしい。 ・ 音楽関係者だけの偏った事業のように感じる。せっかく古賀市に市民オーケストラがあるのだから、かかった経費に見合う収入を確保できるよう、もっと、一般の方に対して、広くアピールすべきではないか。 ・ 定期的に行われており、入場者も増加傾向で、市民の認知度は上がってきていると思う。ただし、団員が増えたことの影響で入場者が増えている状況では、団員関係者だけの身内のものになりつつあると危惧する。市のイベントなどで演奏を行うなどして、関係者以外の人にアピールする必要があるのではないかと。 ・ 当初は入場者が少なく評価も低かったが、この 3 年間で入場者も増えており、発展途中の段階であると考えられる。定期演奏会と銘打ってはいるものの、客演のほうが多く、入場客も一般の方が少ない状況であり、企画や内容にも工夫が必要である。市民に関心を持ってもらえる内容に方向転換したほうがいいのではないかと。 ・ 市にオーケストラがあること自体は評価できるし、今後がんばっていただきたい。将来の自立に向けては、方向性を定めるべきであると考えられる。入場料を取って、収入を上げるのは重要だが、障害者については招待券を配るなどして、演奏を聴いてもらう機会をつくることを考えてもいいのではないかと。 ・ 音楽に興味を持っている人は、古賀で開催されているから来ているだけで、単に演奏を聞くだけなら、古賀でなくてもよい。古賀で開催するからには、古賀市民に広く知ってもらうような展開を図ってもよいのではないかと。障がい者や高齢者施設、学校を訪ね、それぞれのニーズにあった形で、文化的な要素を持たせた演奏を行うことで、大きなオーケストラではできない、市民オーケストラならではの価値を持たせることができ、自立の方向に向かうことにつながるのではないかと。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団 体 名	特定非営利活動法人 古賀市文化協会
事 業 名	夏休みこども体験教室
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主財源を捻出してでも、事業を継続したい意図が感じられる一方、見込みの甘さが見受けられる。人気の高い講座がある一方、日本文化を伝承する講座への参加者が少数であるなかで、実行委員会形式にして、講師料や会場代を負担してまでやりたい人のみで継続するとなると適当ではない。実施する側の負担が大きくなりすぎると、継続が困難になるので、もう少し計画性を持たせるべきだ。 ・ 事業を継続するかどうかは、財源を団体がどう考えるかによるだろう。参加費については、再検討する余地がある。 ・ 文化芸術の振興の点では評価できるが、費用に見合う収入を得るという財政面での課題がある。キャンセル待ちがでるほどの人気の講座は、参加費を上げてよいのではないか。 ・ 材料代などの実費を含め、500 円以上負担している講座でも参加者が少ないわけではない。実施する団体としては、参加費が安いほうが参加者を集めるのは簡単だが、継続して実施するためには、財源を現実的に分析する必要がある。 ・ 参加費を一律に 100 円としているが、参加者の年齢に幅があるので、年齢によって差をつけることを検討してもよいのではないか。 ・ 子どもだからといって、一律に参加費を安くする必要はなく、受益者負担を冷静に分析する必要がある。実施年度や講座によって価格を変えて、テストマーケティングをやると、参加人数や参加者アンケートによる反応を分析することができたのではないか。また、民間の講座での価格を調査するなどして、適正な価格設定をすることも検討していただきたい。今後は実行委員会形式で実施するとのことだが、一人一人の講師に任せるのではなく、財政面でも文化協会ですっかり主導することが重要である。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団 体 名	古賀市「第九」実行委員会
事 業 名	古賀市「第九」演奏会
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ そもそも「第九」を演奏することを目的としたものなので、マンネリ化については、対処が難しいのではないかと。営業努力の問題や、著名なソリストを招いたが効果が上がらなかった点については、補助金を出したことの弊害であると考えられる。実行委員会形式で実施しているのであればこそ、成果についての分析や課題への対応を真摯にやってほしかった。今後は、実行委員会に対して補助金を出すこと自体も見直す必要があると考える。・ 3年間補助を受けていながら、年々参加者、入場者とも減少しているのは、非常に残念。単に補助金がもたらえたから、有名な人を呼んで実施しただけの印象。減少の原因を追究し、根本的に事業を見直すべき。・ アンケートの結果からはよい演奏会であったことが伺えるが、結果的に規模が縮小してしまったのは、補助金に頼ってしまい、努力を怠ったことによるものではないか。下がってしまったチケット販売ノルマを上げるのは、これまで以上に厳しいものとなるが、恒例行事として定着してきているようなので、しっかりがんばってほしい。・ 報告書を見るとよかった点しか記載されておらず、課題の分析や今後の方向性の検討などが見当たらないので、今後の活動に不安を感じる。補助を得ている間に、やるべきことがなされていないのが、残念である。・ 市で「第九」を実施することは意義のあるものだと思うが、補助金がうまく活用されなかった印象である。前年に同様の指摘をしているにもかかわらず、現状の分析ができていないため、今度の方向性が見えてこない。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団体名	古賀市市民劇団 DAICOON
事業名	演劇ワークショップ
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">補助金や助成金に対する考え方が根本的に違うのではないか。補助金は、事業費の足りない部分を補うものではなく、補助金をあてにして事業を行うのは、そもそもおかしい。補助金を受けた 3 年間で、全く解消できておらず、厳しい評価となる。助成金を獲得する努力は見受けられるので、方向性を転換することも含め、活動を一から見直してほしい。原因分析もうまくできていないようなので、第三者を入れて検討する必要があるのではないか。活動内容は、古賀の歴史が題材となっており、市外の人や新しく古賀に来た人に、古賀をアピールできるので評価できるが、今後は市の補助金がなくなるため、財源が心配である。財源に頼らず、自分たちでできる範囲で活動していくことを検討してほしい。事業としては、古賀市の歴史がテーマとなっていることもあり、ぜひ継続してほしい。規模は小さくなくても、演じる側も鑑賞する側も意義は変わらないと思うので、収支のバランスをとって、やれる範囲でがんばってほしい。補助金があったため、支出を大きくしていた印象である。助成金が取れる場合には、それなりに経費をかけて、取れない場合には、収入に応じて事業の規模を設定することができる団体であることが分かった。参加者を増やして収入を上げていく努力も必要だが、経済状況に応じた支出の活動にしていくなどして事業を継続してほしい。演劇を実施すること自体は、演じる側も観る鑑賞する側も意義のあることだと思う。しかし、補助金を使って経費をかけて実施したにもかかわらず、参加者も入場者も少なくなった上、原因分析もできておらず、前年度の指摘と同様の結果となり、非常に残念。規模の大小は、団体の自立に直接影響するものではないが、補助金があるが故に、規模が過大な活動になってしまい、それに慣れてしまうことで自主運営力が低下することが懸念される。今後は補助金に頼らず、自主運営ができる範囲で活動することに注力していただきたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団体名	古賀アートフレンズ25
事業名	絵画で古賀市を元気にするプロジェクト事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">元々自立度が低かったわけではないが、補助金を受けてよい方向に向かっている印象である。次のステップとして、絵画で古賀市を元気にするという目標に対して、具体的な効果を測る方法を考えたり、よりアート色を強め、文化的な価値を高めるための目標を設定することが必要になってきているのではないか。また、文化的な活動団体が多いため、担当課や市民活動支援センターにおいて、うまくいっている団体のノウハウや成功要因を調査研究して、他の団体に波及できるよう努めるべき。応募者や鑑賞者も増えており、財政面での工夫も見られ、評価できる。絵画で元気にすることを具体的にアピールできる方法を検討していただきたい。事業として規模が拡大傾向で、収入支出の面でも安定しているので、評価できる。今後も規模を維持、向上し、古賀を元気にしていただきたい。古賀市を元気にすることで出発し、これまでの間に成果が上がっているが、より美術的な観点に特化した具体的な目標設定ができるとよい。今までの経験を踏まえ、補助金がなくなった後のことを具体的にイメージして、どう継続していくかを考えてもらいたい。事業の内容としては、努力の跡がみられ、よいものになってきている印象である。組織、活動もしっかりしており、協賛金も増えて自立が見込まれ、委員会からの意見に対しても丁寧に対応されており、全体としてはよい印象を持っている。今後は、より高い目標を持ち、自立へのイメージを持って事業に取り組んでいただきたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団 体 名	古賀市商工会
事 業 名	古賀市商工会クリスマス市民祭
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">補助金が無くなってから事業の見直すのではなく、本来であれば補助期間中に検討する必要があった。商店街の活性化は商工会だけの問題ではないため、市も含め検討していくことが重要と考える。実行委員会だけで事業への賛同者を獲得していくことは困難と思われるため、事業の見直しを図る必要がある。前年度の報告書と比較すると、書類作成の精度は高くなっているように感じた。今回補助事業に採択された取組の中で出てきた課題等を検討することで、公募型補助金の経験が無駄にせず、今後事業をよりよいものにしてもらいたい。前年度の反省を踏まえ、アンケートの実施や協賛金の獲得等改善が見られた。事業者アンケートの結果からは、まだ満足度の高くない事業者も多数あるため、引き続き改善に努め、よりよい事業にしてもらいたい。商店街活性化を目的にするのであれば、少ない実行委員会の構成員だけで活動するのは限界があるので、コミュニティづくりの一環と位置づけて、地域のまつりとして事業を実施してもいいと思う。結果的に協力も得やすくなり、モチベーションの向上や集客にも効果が見込まれると思われる。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団体名	古賀市商工会
事業名	古賀市商工会駅前商店街土曜夜市
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ 経費を抑える工夫が見られる、もう少し改善を加えたら自立して事業を実施できる状況になると思う。また、商店街活性化を目的にするのであれば、少ない実行委員会の構成員だけで活動するのは限界があるので、コミュニティづくりの一環と位置づけて、地域のまつりとして事業を実施してもいいと思う。結果的に協力も得やすくなり、モチベーションの向上や集客にも効果が見込まれると思われる。・ 市の補助金が終了しても、経費削減を意識し事業の継続に期待したい。・ 改善が見受けられ、事業としての成長が見られる。今後アンケートの回収数を増やすことで、見えない課題や改善策も多く集まることが想定されるため、事業の継続に期待したい。・ アンケートの回収ができなかったのは残念だが、来場者数も増加傾向にあるため、事業継続に向けて引き続き改善を図っていただきたい。・ 商店街の活性化に向けて、出店料の徴収による収入確保、経費の削減等の成果が見られた。自立に向けては様々な課題があると思うので、担当課を含め、アイデアを出していくといいのではないかと思う。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団 体 名	特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場
事 業 名	プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座の内容を聞くと、新たなプレーワーカーを育成するため入門編ではなく、専門性の高い印象である。育成されたプレーワーカーの実数としては、しっかり育っていると感じる。この人数がきちんと機能すれば、十分プレーパークは実施していけるのではないかと。参加費については、助成金は単年度なので、将来的には自主財源の獲得が必須だと思いが、自主的な努力が見られる点は評価できる。プレーパーク自体は、どこも無料でやっているのではなく、保険代等として 100 円から 300 円程度徴収しているものもあるため、市の子育てサービスが無料である場合や近隣の自治体の状況等の影響はあったかもしれないが、参加費が徴収できなかった点は残念である。 ・ 事業の内容は、よく理解できた。補助金は終了したので、今後の財源面が心配である。 ・ 研修もしっかりと実施されており、意義としても事業は評価できる。子どもが対象なので、参加費をとりづらいのは理解できるが、保護者などの大人の参加もあることから、金銭的な援助の声かけにより、寄附収入が期待できるのではないかと。 ・ 事業の内容自体は、着実に実施されている印象である。団体として、無料でやるという信念のもとで実施されていることがわかった。プレーパークだけを実施している団体ではなく、団体への加入につなげる意図も考えられるので、団体として全体のなかで、財源確保の努力をしていくということであろう。 ・ 参加費はとらないという方向性のもと、助成金を得たり、バザーを行ったりして財源を作る努力は見られる。助成金は期間が制限されていることもあり、長期的に事業を実施するためには、保険料だけでも実費負担してもらうことも必要ではないかと。 ・ 研修の内容からも分かるとおり、プレーワーカーには、専門的な知識が求められており、近隣のプレーパークでは、プレーワーカーはボランティアではなく有償で実施されている。どの程度プレーパークを展開するかにもよるが、人件費等の経費がかかることも念頭に置き、そのための財源をしっかりと考えておくことが必要である。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 27 年度実施事業）

団体名	たけのこ文庫
事業名	科楽しよう！サイエンスレンジャーによる科学教室
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ 前回うまくいかなかった点の改善がみられ、きちんと取り組んでいる印象。原材料費と参加費とのバランスについては、子どもだから 100 円しか取れないということではなく、補助金を受けている期間でテストマーケティングができればよかったと思う。企画内容的には難しいことに挑戦しているようなので、今後は、価格の面についても挑戦していただきたい。・ 子ども達に体験させることはよいことだと思うので、材料代に見合った参加費を検討したり、参加者を広げることに取り組んでいただきたい。・ アンケートをみても子ども達が満足する事業になっており、評価できる。収支のバランスは、材料代がかからない内容にするか、参加費を上げることによって改善できると思うので、継続して活動できるよう取り組んでいただきたい。・ 前年度うまくいかなかった点に対応しており、イベントとしては成功といえるのではないか。今後は経験を生かして、先生に頼らずスタッフでやってみるなどして事業を継続していただきたい。・ 活動の結果をみても一生懸命取り組まれているのが分かる。前年度の反省を生かしている点や委員会からの意見にも対応している点が評価できる。また、アンケートの結果からは、子ども達だけでなく保護者からもよい評価を得ているようだ。当日天候が優れなかったため、後日撮影会を実施し、フォローアップできている点も評価できる。補助金が無くなった後も継続して事業を実施していただきたい。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団 体 名	薦野の歴史をつなぐ会
事 業 名	官兵衛 KK（古賀市薦野）版「千里眼 薦野増時」宣伝事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年々、進化している印象で、真摯に事業に取り組まれていると感じる。地元の人が薦野に愛着が持てたことよりも、区域外や市外の人が薦野に来て薦野のよさや歴史に触れることができたことが成果だと考える。地元で会員をどんどん増やすというのは難しいと思うので、薦野ファンクラブのような形で薦野のことを好きな人を増やしていくことを考えたらよいのではないか。今年度は、活動に一息入れることは理解できるので、今後は、興味のある人を外から連れて来て、少しずつ深く知ってもらうような戦略を立ててもよいのではないか。 ・ 市の補助金があったから実施できた事業であると考え。補助金終了後、イベントを減らし、会員の勉強をしていくだけになるのでは、物足りなく感じる。3年間の活動のまとめとなる冊子の製作ができなかったことは、非常に残念。補助金の成果を形にするために、冊子作りにはぜひ取り組んでいただきたい。 ・ 実績を見る限り、熱意を持って取り組んでいる印象である。今後は、収入の手立てがなく、勉強会が中心になるとのことだが、3年間で培ったノウハウを活用して、市内外への薦野のPRを続けていただきたい。 ・ 3年間を通してイベントを着実に実施できており、評価できる。補助金が終了し、収入がなくなると勉強会中心になるのであれば、スタートに戻ってしまうことになりかねない。今後は、3年間の成果を外へアピールできるよう、取り組んでいただきたい。 ・ 3年間、地道に活動して、成果も上がってきたところで、補助金は3年でなくなることがわかっていながら、今後の活動が見通せなかったのは残念。今後は、活動の範囲を広げたり、これまでの経験を生かして薦野をアピールする活動を続けていただきたい。 ・ 歴史をテーマにした団体で、より知識を深めようと、充電期間を持つようとしているのは問題ない。歴史が団体の柱になっているが、地域づくりの一環として機能していることに意義がある。この団体が主催でなくても、色々な団体がつながり、地域全体が盛り上がるのであればよいという発想で構わないと思う。担当課だけでなく、移住、定住の視点も加えて、市の別の部署を巻き込んだ活動にしていってもよいのではないか。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団体名	わんにゃんフレンズ古賀
事業名	ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発活動
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ 担当課、委員会とも高い評価の事業である。今後は、事業の成果をいかに地域へ波及させていくが課題になると思われる。補助金という制度を使いながら、行政と共働で仕組みをつくるという、共働のまちづくりという視点で、いい取組になったが、それを広めていくためのツールや、いろいろな人に伝える方法が、まだ整っていない状況である。行政と市民団体が共働するいいモデル事業になったと思うし、この事業をモデルとして行政内部にも共働事業が広がることを願う。・ 収入実績も増えており、とても評価できる事業と思う。今後は、地域猫活動を軸として、積極的な啓発活動の取り組みにも期待したい。・ 事業当初は、経費のバランスが悪く、会員の手出しも生じていたが、行政との共働により課題を解決し、避妊去勢手術という手法だけでなく、本来のノウハウを活動に活かすことに成功している。自立というと、利益を出して収支のバランスをとることだと思われがちだが、収入を得るばかりでなく、別の形の自立という方向を示した事業になったと思う。・ とても意義のある事業に成熟したと思う。この取組の意義について、古賀市内での市民や行政はもちろんのこと、全国の自治体にもPRをしていただきたい。今後は、近隣自治体との連携を図るなど、事業の発展に期待したい。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団体名	特定非営利活動法人エコけん
事業名	るんるん♪ごみ拾い
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">• 団体への期待が高かったこともあるかと思うが、NPO法人として補助金を活用し実施するのであれば、事業の発展等工夫する余地があったと思われる。普及啓発だけをやって3年終わるのは残念に思える。• ボランティア活動への入口としては評価できる。イベントとしてはいいが、3年間同じことをやっただけの印象を受ける。今後は、事業の発展を視野に入れて事業の見直しを図ってほしい。• 団体として、スタッフ、資金、ノウハウもあるのだから、ただごみを拾って終わりというのは、物足りなさを感じる。拾ったごみの内訳を整理するなどの工夫もほしかった。また、仕組みやサービスをパッケージ化して、色々なイベントの実行委員会に対して提案したり、ノウハウをサポートしていったりすることが、取組の普及啓発をさらに広げていくことにつながるのではないかと。	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団 体 名	古賀すたいる
事 業 名	生活者による地域密着・Web連動型フリーペーパー発行事業
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none"> 計画時と実績において支出内容が異なることについては、計画の見込みが甘く、計画どおりに実施する意識が低いことが考えられる。一つ一つの取組はよいが、色々な取組が拡散しすぎて柱が見えない。徐々に公的な存在になりつつあり、社会的な自立を求められるところまでできていると考えられるので、計画の見込みをしっかりとすることに力点を置いたほうがよい。古賀市や団体をPRするために宣伝することは理解できるが、情報誌を発行する団体が、新聞やテレビなどのマスコミを使って拡げること自体は、評価が分かれるのではないかと。情報誌として勝負できるようがんばっていただきたい。 予算的な計画性が見られない。計画性をもって事業に臨んでもらいたい。また、事業の結果が見えにくいので、成果について、数値で表せるものを示してほしい。 市との協同事業を実施していることもあり、技術的にも信頼度を上げてきていると思う。計画どおりに定期的に発行できる体制を確立させて、スケジュールを組んで確実に実施する意識付けをすることが必要である。団体としても市内に浸透してきていると思うので、継続して活動していただきたい。 補助事業を開始するとともに団体として走り始めて、模索しながら色々な取組を実施しているところだと思うが、その時そのときの感覚で飛びついている印象である。単発的なものでは限界があるので、これまでに取り組んだ内容を集約し、団体としての立ち位置を確認し、どう情報発信をするのかの戦略を練っていくべき。方向性を定めて、計画的に着実に実施していくことを考えていただきたい。 市とのコラボレーションもあり、新聞やテレビでも取り上げられ、古賀市での認知度も高まって、活動に広がりが出てきている印象である。また、成果報告書の記載事項を見ると、自己分析もできているので、定期的な発行ができていないなどの課題に対しては、しっかりと努力していただきたい。収入面では、広告料がしっかりと取れる程度にクオリティの高い紙面づくりや成果については、効果を数値で示すことにも意識を持っていただきたい。 	

補助金審査委員会による実績評価結果（平成 28 年度実施事業）

団 体 名	古賀市さとうきび研究会
事 業 名	古賀あったかハウスきびの里プロジェクト
評価におけるコメント	
<ul style="list-style-type: none">・ 作付けがうまくいかなかった原因を解消するのにどれだけの時間がかかるのか疑問。計画と実績がないため分からないが、事業が計画的に実施されていないのではないか。申請時は障害者雇用に関する記述がほとんどなく、事業展開が想像できなかったが、報告時にも改善が見られない。・ 事業全体を通して、計画性が見られない。補助金をもらい、事業をただ実施しただけ、改善や工夫が見受けられない。・ 申請時も実績もそうだが、サトウキビを作ることに注力して、障害者の就労に関することや、小中学生向けの体験等がどのように事業に結びつくかが見えない。事業の目的を達成するために、どう展開していくかを、場当たりのではなく、計画的に事業を実施すべき。・ サトウキビを作ることが目的になって、障害者の就労は後から取ってつけたと言われてもしょうがない内容になっている。ただ作業に従事する下請けのようにも捉えられるため、意見を付していたように、計画段階からの共働体制等を計画的に実施する必要があったように感じる。	